



News Letter

国際農業機械化研究会

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 新農林社内 電話 03-3291-5718・3674

INTERNATIONAL FARM MECHANIZATION RESEARCH SERVICE

c/o SHINNORIN-SHA, 1-12-3 KANDA NISHIKI-CHO, CHIYODA-KU, TOKYO, ZIP101-0054 JAPAN., TEL. 03-3291-5718・3674

News Letter 通巻 468号

2013. 12. 27
毎月1回発行

発行責任者
岸田義典

目次

2013

11月号

- 国際 DLG 農業技術展
「アグリテクニカ 2013」視察..... 2
国際農業機械化研究会理事長 岸田義典氏
- 国別輸出入 (2013年9月)..... 12
- WORLD NEWS..... 17
- EVENTS CALENDER..... 18



国際農業機械化研究会は、(株)新農林社と共催で、第468回海外農機事情報告会を平成25年11月29日(金)に開催した。講師は、国際農業機械化研究会理事長(株)新農林社 代表取締役社長) 岸田義典氏。岸田氏は、2013年11月12日～16日にかけて、ドイツのハノーバーで開かれた「Agritechnica」展を視察。その視察の様子を映像と共に報告した。要旨は以下の通りである。

2013年11月12～16日の5日間(プレビュー日は10・11日の2日間)、ドイツのハノーバー市でDLGドイツ農業協会主催による世界最大級の農業機械の展示会「アグリテクニカ2013」が開催された。

出展社数は2898社で、その他会社を代表する販売店等を含め、展示社数は47カ国から2930社と2011年と比べると約7%増加した。海外からの参加者は年々増えており、2001年からと比較すると約3倍になっている。

海外の参加者内訳は、イタリア368社、オランダ117社、フランス101社、中国101社、トルコ92社、オーストリア81社、英国61社、ポーランド58社、カナダ55社、デンマーク49社、米国48社、スペイン43社、インド33社、フィンランド29社、チェコ28社など。特に、参加者数が増えているのは、トルコやポーランドなどの新興諸国で、他にも東欧諸国の出展が増加している。

日本からも6社が参加

日本からの参加企業は、北海道農業機械工業会の小間に(株)IHIスター、(株)アトム農機、(株)エフ・イー、オサダ農機(株)、サンエイ工業(株)、東洋農機(株)の計6社が出展。加えて、日本農業機械工業会と農研機構が共同で小型トラクタ用ISO-BUSシステムを展示、日本独自の規格をアピールした。

会場の展示面積は2370平方メートルで、前回よりこちらも約9%増えた。来場者数は約45万人で、その内、海外から約11万2千人が参加した。特に近年は、北米や中南米を始め、オセアニアやインド、

アフリカの国々からの来場者が増加している。来場者の内訳は、農家・農業法人・マシーネンリンク54%、コントラクター8%、工業・コンポーネント関連11%、林野関連4%、貿易・流通7%、大学・団体・組合・コンサルタント8%となっている。

今回の新しい展示方法を紹介します。「Systems & Components」として、部品・コンポーネンツ関連のブースを3つのホールにまとめたことで、サプライヤーが移動しやすくなった。加えて、新たなサービスを備えたSystems & Componentsラウンジの新設、サプライヤーのためのミーティングプレイスの設置など、以前に比べ商談しやすくなった。

スマート農業の進展著しく

DLGのCEOであるラインハルト・グラントケ博士は、「アグリテクニカ2013は海外からの来訪者も増加し、国際化が進展しまだまだフェアは成長している。来場者にアンケート調査を行なったところ、3分の2以上の農家の経済は上向きだとし、今後2年間のうちに旺盛な投資を行う計画にある」とポジティブに語った。

近年の出品機の傾向として、コスト効率と環境適合が挙げられる。機械の大型化、高速化に加えて、電子機器やセンサシステムの開発は、効率的で確かな操作が可能になった。また、データ管理、ナビゲーション/センサ技術等を駆使する『スマート農業』の技術進展も著しい。

また、今回初めて「米」をテーマにした展示も行われた。稲作に関する一般情報や技術展示・プレゼ